

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市西山児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター
3	指定期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》 17,201人 (前年度比 111.8%) 平成30年度 15,387人 平成29年度 15,100人 平成28年度 15,294人
		《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5	収支の状況	《費用》 指定管理者に支払った費用 29,951 千円 (27,389 千円) その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
		《収入》 使用料収入 0千円 (0千円) その他収入 0千円 (0千円)
		()は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II	施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III	施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV	サービスの質の向上	リーフレットや児童館だよりの発行、ブログの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V	施設固有の基準	児童クラブにおいては、子どもの年齢や興味関心に即した遊びを提供し、メール配信などでの保護者への丁寧な連絡や学校との細やかな情報共有により連携した育成支援を行っている。放課後子ども教室とも連携が取れており、行事の共催や手伝い、校庭での遊びの見守りなど日常的な協力体制を築いている。長期休み中の行事についても、自由来館の子ども達の参加を想定した行事を積極的に企画するなど、地域全体の児童を意識した事業展開に努めている。	19/19

三 評価総括

《指定管理者（ 特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター ）による自己評価》

新型コロナウイルス感染症対策に伴い3月の児童館事業の休止を余儀なくされた令和元年度であったが、年間利用者数は17,201名と過去最多となった。児童クラブの登録人数増と利用増が主な要因ではあるが、地域からの需要と受け止め引き続き充実した運営ができるよう努力していきたい。

【児童健全育成】小学生ボランティアグループ「ニシヤマセブン」は、9名の新規登録により構成員が18名となった。毎月の自然体験活動と季節キャンプの引率、1年生お泊り会の運営、館行事、法人特別活動、地域のお祭り等多くの場面で活躍を見せた。【子育て家庭支援】鶴・燕・西子育て支援ネットワーク活動では、5施設での定期的な情報交換会議、3回目の共催乳幼児親子向け行事を実施することができた。にしやま茶屋では読み聞かせサークルの方のお話タイムを融合させることにより、参加者が増えたことは大変喜ばしかった。体操クラブ「1,2のたいそうキッズ」は、集団生活の練習も兼ねて未就園児親子からの需要が高い活動となった。【地域交流推進】「健脳健骨運動」には毎回平均10名の高齢者の方が参加し、乳幼児親子との茶話会を通し、地域世代間交流を促した。今年度も運動参加者に「にしやま食堂」のボランティア要請を行い、行事の支援、小学生とのふれあいの時間を持っていただくことができた。【放課後児童健全育成】新1年生の人数が過去最多になり、上半期は児童の生活と遊びが安定するよう、受入れ方法、タイムテーブルの見直しなど、児童の安全を図りつつ、上手に心と体の開放や気分転換が図れる効果的な運営に努めた。法人の特色を活かした活動を今年度も提供する事ができた。

《施設設置者（仙台市）による評価》

総合評価

子育て家庭支援事業では、「鶴・燕・西子育てネットワーク」により情報交換や共催行事の開催を進め、関係機関との協力体制のもと、近隣地域を含めた乳幼児親子支援の幅を広げる工夫をしている。児童館での独自性のある取り組みとして、運動遊びに特化した体操クラブ「1,2のたいそうキッズ」を行い利用者にも好評を得ている。また、高齢者に向けた「健脳健骨体操」を児童館で行うことにより、地域の高齢者と乳幼児親子が触れ合う世代間交流の場にもなっており、地域活性化に貢献している。

児童健全育成事業では、「地球探検隊」で長期休業期間中のキャンプや月に一度の自然遊び体験を行うなど、自然体験活動を積極的に取り入れ、課題解決能力や豊かな人間性を育てている。また、小学生ボランティアグループ「ニシヤマセブン」は、「地球探検隊」をはじめ、様々な児童館行事でリーダーとなり活躍しているほか、法人特別活動のチャリティー活動にも参加し、社会体験活動を積み重ねることで、地域のリーダーとなり得る人材の育成にもつながっている点が評価できる。

放課後児童健全育成事業では、子どもの心を理解することや子どもの思いに寄り添うことを大切に、職員間での共通理解を図り支援にあたっている。また、毎日の集まりの時間に、職員が考えた遊びを子ども達に提供する場を設けるなど、職員の資質向上にも努めている。

S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課